

11月21日⑨以降の新型コロナワクチン接種医療機関について

10月21日現在の情報のため、変更となる場合があります。

11月21日⑨から新型コロナワクチン接種医療機関数が減少します。引き続き次の医療機関で接種できますが、医療機関により予約方法が異なりますので、詳しくは予約サイトをご確認ください。

医療機関名	対 象			
	12歳～15歳 (平成18年4月2日～ 平成22年3月1日生)	16歳～18歳 (平成15年4月2日～ 平成18年4月1日生)	19歳以上 (平成15年 4月1日以前生)	妊婦
君塚病院	—	—	○	○
公立長生病院	○	○	○	○
穴倉病院	○	○	○	—
菅原病院	—	○	○	—
茂原神経科病院	—	○	○	—
山之内病院	○	○	○	○
塩田記念病院	—	○	○	○
聖光会病院	—	—	○	—

※お手元の接種券は引き続き有効ですので、1・2回目の接種を行っていない方はご検討ください。

新型コロナワクチン接種に関する問合せ **長生郡市予防接種予約受付センター ☎050 (3815) 4790**
受付時間8時30分～17時 (土日・休日を含む)

問合せ **健康管理課 (2階) ☎(20) 1574 FAX(20) 1600**

市長が行く



茂原市長 田中豊彦

日本の行く末 茂原の行く末

いくのか？

コロナ感染者もここ長生地域でもしばらく0が続き、ほぼ抑えられてきたように思います。しかしまだ医療従事者の方々のご苦労は続いており、油断はできないところではあります。そんな中、衆議院が解散され、選挙戦が始まりました。(執筆時10月19日現在)各党の党首たちの話を聞いてみると、「国民の声にこたえるために」と、コロナ対策をはじめとして医療、介護、教育、福祉、災害対策などさまざまな分野において、こうありたい、こうしていきたいという理想的な言葉が並びます。借金が膨れ上がる一方の今の日本で、手厚い介護、保育の充実、賃金の底上げ、生活困窮者の救済、被災地対策などに十分な予算をつけることなどできるのか、これからの世代に、大きな借金という負の遺産を、残すだけではないかと、以前から常に疑問に思っていました。コロナにより、経済も停滞しています。財源はどうするのか。国債の発行による借金をまたさらに増やして

先日「文藝春秋」(2021年11月号、92ページから101ページ)に財務事務次官矢野康治氏が寄稿した「財務次官、モノ申す」という記事が載っていました。大胆な記事に目が留まり、官僚にも真剣に国の財政を憂えている人がいるのだと、大変興味深く思いました。彼は言います。『数十兆円もの大規模な経済対策が謳われ、一方で、財政収支黒字化の凍結が訴えられ、さらには消費税率の引き下げまでが提案されている。まるで国庫には、無尽蔵にお金があるかのような話ばかりが聞こえてきます。』『このバラマキ・リスクがどんどん高まっている状況を前にして、「これは本当に危険だ」と憂いを禁じ得ません。』『今の日本の状況を喩えれば、タイタニック号が氷山に向かって突進しているようなものです。』彼はどうしたらこの状況を回避できるのかを勇気をもって記事にしています。

茂原市においても、私が市

長に就任する直前の財政は、似たような状況でした。800億円近い借金を抱え、財政調整基金は2、3億円しかなく、第二の夕張と言われるほど行き詰まった状況でした。国のように国債を発行すれば湯水でもなく、難局を乗り越えるため、さまざまなシミュレーションをしながら、一つずつ問題を整理しこまごまとやってきましたが、それでもまだ約560億円の借金があり、決して安心できるレベルではありません。市民のためにお金を有効に使いたい気持ちには山ほどありますが、使う先を選択し、少しずつ事業を進めていくしかないのが現状です。今、誰がこの国の形を修正できるかが問われているように思います。与党も野党も真剣にこの財務省の方の意見に耳を傾けるべきだと思います。この日本の財政の立て直しを明確に具体的に示すことこそが、アフターコロナで真っ先にすべきことと私は思います。

お知らせ

市では、広報紙の送付を希望される方に無料で郵送しています。
問合せ 秘書広報課(3階) ☎(20)1512 FAX(20)1601